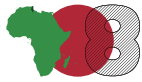


**TICAD****第8回アフリカ開発会議(TICAD8)サイドイベント****Save the Children**

# 「アフリカの角」の 飢餓を考える

## ーソマリア飢饉から10年後の現実と解決への糸口

ソマリアの避難民キャンプで暮らす、サハーさん2歳と従妹のアミラさん7歳 © Sacha Myers/Save the Children

アフリカ東部「アフリカの角」地域のソマリアやエチオピア、ケニアでは、気候危機や紛争、新型コロナウイルス感染症、さらにウクライナでの紛争の影響によって極度の食料不足に陥り、48秒に1人の命が犠牲になっていると推定されています。約10年前の2011年、ソマリアでは飢饉により26万人以上が死亡し、その半数は5歳未満の子どもでした。その後、さまざまな対応策が取られてきましたが、いま再び、この地域は、壊滅的な飢餓に直面しています。本イベントでは、2022年5月にセーブ・ザ・チルドレンがオックスファムおよびケニアのジャ

ミール研究所と共同で公表したアフリカの角の飢餓に関する調査報告書、『危険な遅れ2(Dangerous Delay 2)』の日本語版を発表するとともに、セーブ・ザ・チルドレン ソマリア事務所より深刻化する干ばつと飢餓について、その現状を報告します。パネルディスカッションでは、多様な立場から飢餓の問題や人道支援に関わる方々を迎え、飢餓への取り組みと国際社会や各アクター(関係者など)が果たすべき役割について考えます。

**日時**

**2022年18:00-19:45**  
**8月18日(木)** ※開始10分前より入室できます。

**参加費****無料****開催形式**

WEB会議サービス「zoom」を使用します。

事前はこちらからインストール(無料)をお願いします。

[http://zoom.us/download#client\\_4meeting](http://zoom.us/download#client_4meeting)

**参加登録**

要事前申し込み(当日16:00まで)。

下記リンクよりお申し込みください。

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_FKznx10NQSeWZr80U8U7A](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_FKznx10NQSeWZr80U8U7A)

**主催**

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

**お問い合わせ**

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

担当 島村 [japan.advocacy@savethechildren.org](mailto:japan.advocacy@savethechildren.org)

**プログラム****開会挨拶**

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
理事

小尾尚子

国際基督教大学人道アクションネットワーク  
プログラムコーディネーター

**危険な遅れ**

ーソマリアにおける飢餓の現状とセーブ・ザ・チルドレンの活動

セーブ・ザ・チルドレン ソマリア事務所 ムハムド・モハメド・ハッサン  
代表

**アフリカの角における飢餓の現状と取り組み**

国連WFPエチオピア国事務所  
支援事業責任者

浦香織里氏

SUN (Scaling Up Nutrition)  
栄養ユースリーダー

ジェイン・ナパイ・ランキサ氏

近畿大学国際学部国際学科グローバル専攻  
准教授

桑名恵氏

**パネルディスカッション**

「飢餓の解決に向けてー求められるアクションと変革」

上記スピーカーの皆さま

**質疑応答****コメント**

外務省国際協力局緊急・人道支援課  
課長

松田友紀子氏

**閉会**

個人情報の取り扱い : セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、業務上取り扱う全ての個人情報は、個人情報保護法その他の法令並びに当団体の個人情報保護方針などに則り適正に管理します。お預かりする個人情報は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動の目的のみに使用します。

## スピーカー・プロフィール(登壇順)

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
理事

国際基督教大学  
人道アクションネットワーク  
プログラムコーディネーター

**小尾 尚子**

(おび・なおこ)



国連難民高等弁務官 (UNHCR) 事務所において約30年間勤務 (ケニア、フィリピン、タイなどのフィールド事務所及びスイス・ジュネーブ本部、日本など)。主に法務、難民保護関連の活動に従事。UNHCR本部においてはコミュニティ開発・ジェンダー平等、女性・子どもの保護課長を務める。現在はいくつかの大学で「難民の国際保護」、「人道アクション」などの講座を開講。2021年よりセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事。

セーブ・ザ・チルドレン  
ソマリア事務所 代表

**Mohamud  
Mohamed HASSAN**

(ムハムド・モハメド・ハッサン)



東アフリカとアジアでの人道支援・開発援助において29年の経験を有する。ソマリアのDanish Refugees Council、その後ヒューマンティ・インクルージョン (HI) でソマリアとバングラデシュのカントリー・ディレクターとして勤務後、2010年3月、セーブ・チルドレンのソマリア・プログラムに参加。現在、ソマリア事務所代表として、毎年300万人以上に支援を提供するプログラムに戦略的なリーダーシップとガイダンスを提供している。ナイロビ大学で行政学の修士号と社会学の学士号を取得。

国連WFPエチオピア国事務所  
支援事業責任者

**浦 香織里 氏**

(うら・かおり)



2002年London School of Economics国際関係学修。NGOのJENにて主に緊急人道支援に従事後、国連WFPギニアビサウ国事務所にてモニタリング、モザンビーク国事務所にて支援事業を担当。その後、在カメルーン日本大使館にて経済協力、国連WFP西アフリカ地域局にて支援事業のアドバイザーを担当。JICAセネガル事務所、国連WFPローマ本部を経て、2014年より南部アフリカ地域局プログラム・アドバイザー。2019年に国連WFPレバノン国事務所にて支援事業責任者、2020年より現職。現在、アフリカの角の飢餓に対するエチオピアでの緊急援助を含めた6つの事業を統括・指揮する。

SUN (Scaling Up Nutrition)  
栄養ユースリーダー

**Jane  
Napais LANKISA 氏**

(ジェイン・ナパイ・ランキサ)



ケニアのケニヤッタ大学で栄養士の資格を取得した後、一貫して女性や女兒の栄養教育に携わる。現在、Feed the Childrenで、栄養アドボカシーユニットのチームリーダーとして、特に思春期の女兒の栄養と、栄養とジェンダーの不平等、児童婚との関連について取り組んでいる。SUN (Scaling Up Nutrition) ムーブメントの栄養ユースリーダーとして各地を訪問し、ローマで開催されたIFADの会議では、パネリストやスピーカーとして活躍。その他マンデラ100会議 (南アフリカ)、Women Deliver会議 (カナダ)、TICAD7 (日本)、SUNグローバル会議 (ネパール) でもパネリストやスピーカーを務めた。

近畿大学国際学部国際学科  
グローバル専攻 准教授

**桑名 恵 氏**

(くわな・めぐみ)



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン海外事業部長、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム事業部長、お茶の水女子大学講師、立命館大学准教授等を経て、現在近畿大学国際学部准教授。1995年以降、日本やアメリカのNGO スタッフとして、主にコンゴ民主共和国、イラク、東ティモール、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマーなどでの紛争や自然災害後の復興支援に従事。専門は、人道支援論、市民社会論。主な著書は『緊急人道支援—紛争・災害・危機への新たな対応』(編)(ナカニシヤ出版、2021年)。

外務省国際協力局緊急・  
人道支援課 課長

**松田 友紀子 氏**

(まつだ・ゆきこ)



1994年外務省入省。2021年10月より現職。国際文化協力室、女性参画推進室、北米局北米第一課、南部アジア部南西アジア課、国際法局条約課、在ジュネーブ日本政府代表部などで、多国間協力、地域外交、条約締結交渉、人権外交等を経験。慶應大学法学部政治学学士、米国コーネル大学行政学修士取得。